

房総の 文化財

VOL. 17

平成10年11月30日
財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850

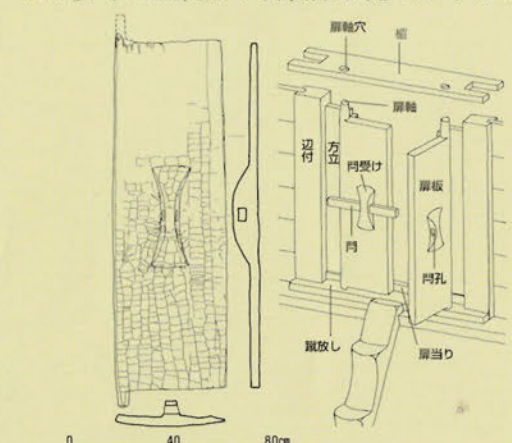
ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



発掘調査速報

高床式倉庫の扉を発見 — 館山市長須賀条里制遺跡 —

長須賀条里制遺跡は、館山湾に面した平野の南部、標高10m前後の低地に位置しています。今年度は4月から調査を実施しており、多くの成果をあげています。その中でも中心となるのは、古墳時代中期から後期前半の水路、水田跡、さらに水辺で豊作を祈った水際祭祀跡からは、滑石製の子持勾玉や銅製の鏡、木製の鋤や鍬、そのほか祭祀の様子を彷彿とさせる多くの土製品や石製品が見つかりました。

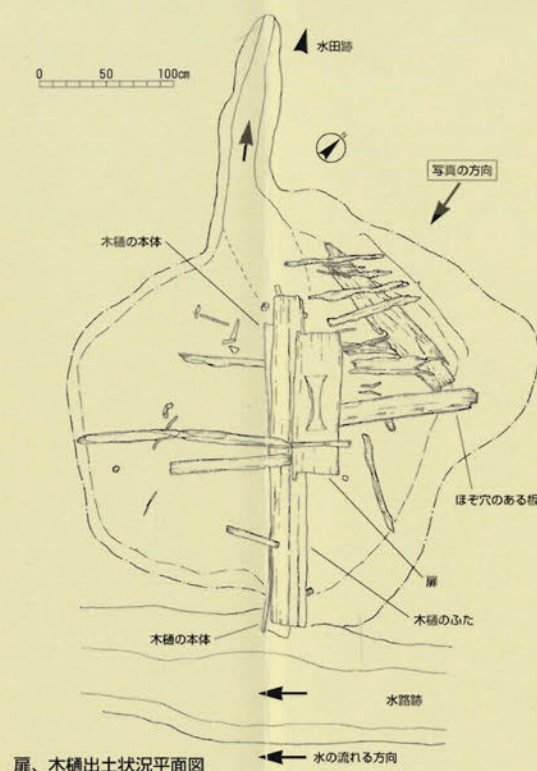


大阪府大東市北新町遺跡出土の扉板
(「木器集成図録 近畿原始編」奈良国立文化財研究所発行より)

この遺跡の発掘調査で8月中旬、古墳時代後期前半（6世紀前半）の高床式倉庫の扉板が発見されました。

大阪府内で見つかった扉と比べて見てください。左端上下につくられている扉軸や扉板の中央にある門受けの形、一本の木から中央の門受けと扉板を削り出している製作方法まで、多少の大きさの違いはありますがとてもよく似ています。当時の先進地域であった畿内地方と同じ形式の高床式倉庫がここに存在していたことがはっきりしてきました。

この遺跡では、ほかにも多くの木製品が見つっています。その一つに木樋があります。扉板の下に密着して、右図のように北東から南西に流れる水路に、取り付けられていました。さらに、木樋の北方には水田跡が広がっているのがわかりました。木樋は、角材をくりぬいた本体の上に板状のふたがされていました。水路から水田へ、水を引くパイプの役目を果たしていたようです。（渡辺 昭宏）



扉、木樋出土状況平面図

収蔵遺物コーナー

明るさを呼ぶニワトリ — 芝山町山田宝馬164号墳より —

“コケッココー”

最近あまり聞かれなくなりましたが、ニワトリの鳴き声を聞いて目覚めたことのある人も多いかと思います。

今回紹介するのは、芝山町の山田宝馬164号墳（にわとり塚）から出土したニワトリ形の埴輪です。

この古墳は6世紀後半に築かれた、全長45mの前方後円墳です。昭和62年の調査の時に、古墳の周溝から武人や家などの埴輪と一緒に、つぶれた状態で出土しました。はじめは水鳥かと思われたのですが、復元するととさかのあることからオスのニワトリだということがわかりました。翼を折りたたみ、力強くすくと立ち上がった首が何とも凛々しく感じられます。眼も鋭く遠くを見つめているようで

す。古墳の上に立てられていた時には何を見つめていたのでしょうか。

ニワトリと人との付き合いは古く、弥生時代から人間に飼われていました。古墳に並べられる埴輪としても、比較的早く4世紀には現れるようです。

ニワトリは、時計のない時代には、時を告げる鳥として、また、暗闇から朝（明るさ）を呼びかえす特別な力をもっているものと信じられていたようです。古事記の天の岩戸神話の中でも「常世の長鳴鳥」として出てきます。

最近では、いろいろな事件がおきたり不景気であったりと重苦しい時代ですが、このニワトリの鳴き声で明るい未来を呼びこんでほしいものです。

（平野 雅一）



芝山町山田宝馬
164号墳出土
ニワトリ形埴輪

遺跡今昔物語

船の路から陸の道へ
～ 東関東自動車道（成田・潮来区間）～

明治時代の末ごろまで、成田から潮来にかけての主要な交通手段は利根川を利用した水上交通でした。縄文時代は香取の海（現利根川）を、丸木舟が行き来し、江戸時代は、帆を張った高瀬船が物資や人を江戸まで運んでいました。その後、明治31年に成田・佐原間に鉄道が開通すると列車による陸上輸送へと代わり、今日ではトラックによる輸送が中心になっています。そして、茨城県鹿嶋市に新しく造られた工業地帯と首都圏を短時間で結ぶために新しい高速道路が必要になり、東関東自動車道（成田・潮来区間）が建設されました。

この道路工事区間には57か所の遺跡があったため、昭和53年4月から昭和59年3月にかけて発掘調査が行われました。その結果、旧石器時代の石器製作跡や、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代にいたるまでの集落跡、中世の館跡などが発見されました。香取の海を船が行き交っていたころの様子や、香取神宮と周辺の集落の関係もおぼろげながらわかってきました。これらの遺跡のうち主なものを紹介します。（平野 雅一）



佐原香取インターチェンジの近くには、大和朝廷の東国経営の拠点として創建された香取神宮があります。吉原三王遺跡からはたくさんの墨書土器が見つかり、「・・・替進上」の文言から神宮に奉仕する人を差し出していたムラであることがわかりました。

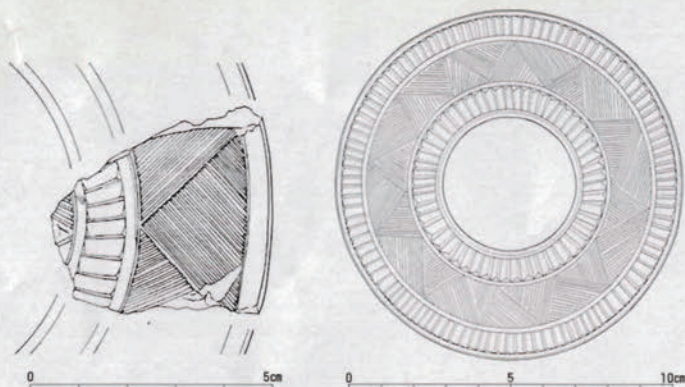
吉原三王遺跡全景



古墳時代の腕飾り

市原市草刈3号墳から古墳時代中期の石製腕飾りの1種である滑石製腕飾りが出土しています。石材はやや軟質の滑石で、縦4.4cm、横4.7cmの破片から推定される外径は17cm、内側の環状部の径は4cmです。表裏両面に複合鋸歯文や面違い文が彫刻されており、同じ村田川下流に位置する千葉市七廻塚古墳から出土した滑石製腕飾りと大きさや文様が良く似ています。このほか、同じような文様を持つ古墳時代の石製腕飾りは、近畿地方から出土した数例ほどが知られている程度です。なお、これらの遺物には共通して複合鋸歯文がつけられていますが、草刈3号墳と七廻塚古墳の出土例は、他とくらべて大型で偏平な点が特徴です。

(部 淳一)



市原市草刈3号墳出土 滑石製腕飾り

千葉市七廻塚古墳出土 滑石製腕飾り



奈良県奈良市 猫塚北1号墳出土石製腕飾り（『松林苑跡Ⅰ』奈良県立橿原考古学研究所発行より）

0 5 10cm

Q&A

Q

先日博物館で、ムササビの形をした埴輪を見ました。大変珍しいものと聞きましたが、埴輪の中にはほかにどんな動物がいるのですか。
(第2回最新出土考古資料巡回展会場での質問より)

A

質問にあるムササビ形埴輪は、成田市みなみはとりしょうふくじ南羽鳥正福寺1号墳から出土しました。この古墳は、周囲に二重に堀を巡らした直径20.5m・高さ1.9mの円墳で、人物埴輪、動物埴輪のほか、多数の円筒埴輪が発見されました。この動物埴輪にはムササビのほかウマ、ニワトリ、タカ、水鳥、魚などさまざまな種類がありました。なかでも、ムササビ形埴輪は、全国でほかに類例を見ない珍しいもので、顔を上げ、背中を伸ばし、皮膜を広げた形は、ムササビが空中を滑空する姿を表現しているようです。口の両端が後方に裂ける表現も、リス科の動物の特徴を表しています。

一般に、動物埴輪にはこのほかにもイノシシ・シカ・イヌ・サルなどが見られ、イヌとイノシシが対になって



栄町竜角寺古墳群101号墳の復元埴輪列（県立房総風土記の丘提供）

いる例からは、豪族が生前行っていた狩猟の様子を表現していると言われています。

(石田 清彦・立和名 明美)

お知らせ

◎千葉県遺跡調査研究発表会◎

千葉県における遺跡調査の成果を公開する発表会と出土遺物の展示会を開催します。

●日時 平成11年1月31日(日) 午前10時～午後3時30分

●場所 千葉市文化センター(千葉中央ツインビル2号館)



■表紙について

壺
(市原市武士遺跡出土)
弥生時代中期(約1,900年前)、遺体を埋葬し、後に掘り起こして遺骨を集め、この壺に入れて再び埋葬した。
撮影：堀越知道